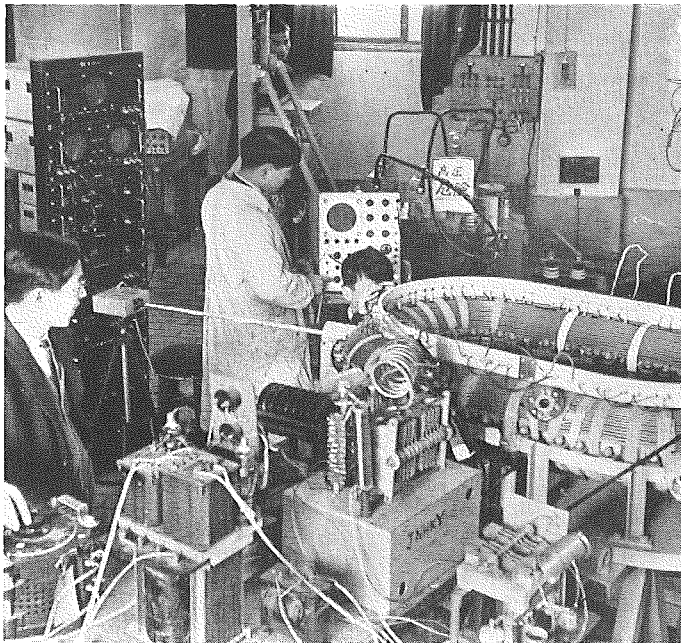


洛友會々報

京都市左京区吉田本町
京都大学工学部
電気工学科教室内
洛友會

超高温プラズマ発生装置

今回京大工学研究所に設置されたヘリオトロンBは、放電管壁に一定間隔をおいて巻いたコイル列に交互に方向が逆になる電流を流し、このコイル列が作るカスプ列をもつ特殊な波型磁界の中に高温プラズマを閉じこめて、更に、イオンサイクロトロン共鳴吸収により加熱しようとするもので、従来のものとは、全く別の行き途を辿る京大大学独自の方式によるものである。



電気工学第二学科新設について

林 重 憲

京都大学工学部の電気工学部門は、御承知のように、現在、電気工学教室と電子工学教室の両学科から構成され、各教室に五講座、合せ十講座からなっているものであります。時世の進展に伴ない、電気工学の内容は多彩を極めて参りましたので、これに対処するため、二年前からその拡充発展を企画して参りましたが、去る一月中旬の閣議において、京大大学に、電気工学第二学科の新設が決定されました事は御同慶に堪えない次第であります。新教室は、今年四月から新発足致しますが、定員は五十人であります。官制発布までは、これを一応電気工学科の人員に含めて、電気工学科の学生を百名として募集しますが、官制発布後は、これを両教室に分属させることになっております。従いまして、これと電子工学科の定員三十五名とを合せますと、来る四月には、電気工学関係の新人学生は、百三十五名ということになり、洛友会に実に多数の人的資源を吸収して戴くこととなります。新教室の設立に関しましては、名譽教授の諸先生方、諸先輩の方々、同窓の皆様多数から、心からなる御支援御鞭撻を賜り、終いに多年の宿望を達したものであります。それらの方々に謹んで御礼を申し上げます。なお、新教室設立の趣旨と講座の構成は左の通りであります。

すが、電気工学科、電子工学科、電気工学第二学科の三教室は打って一丸とされた大電気工学教室と考えまして互に緊密な連絡をとりながら運営して行く方針でありますから宜敷御願ひ申し上げます。なお、新教室の設立に伴ない、今後洛友会の方々に、更に色々御支援をお願い申し上げますが、その節は宜敷御高配を御願ひ申し上げます。

電気工学第二学科

電気関係の工学は、諸産業の中心として数多くの専門分野にわかれ、それぞれの分野において高度の研究・技術の開拓が行なわれ、専門はますます高度化するに至った。従ってこれらを横に密接に連絡させ、電気関係の工学を総合的立場から教授・研究していかわゆるシステムエンジニアの育成をはかることが要望されるようになった。

電気工学第二学科は上記の要望にこたえるために新設されるものであって基礎講座3、応用講座5から編成されている。

基礎講座に属するものは、電気回路網学、半導体工学および計算機組織学であって、電気工学の急速な進歩に対処するには、電気物理学的ないしは、電気数学的な素養を十分身につけることが最も望ましいとの観点から、広義の電気回路網の解析、

半導体を中心とした現象の物性論的な取り扱い、データ処理組織の基本課題などが大きい比重で取り上げられている。

またこれに対応する電力工学的応用部門として、電力系統工学、電磁機械構成学および放電工学を、通信工学的応用部門として情報工学および音響工学を配し、これらの内容は問題を総合的系統的に把握する感覚を養うように考慮されている。この学科に設けられる講座名ともなな教科内容は次のようなものである。

- 第一講座 電気回路網、受動回路、能動回路
- 第二講座 半導体工学、物性論
- 第三講座 電気計算機学、計算機組織学
- 第四講座 情報工学、変調方式
- 第五講座 電力系統構成、運営
- 第六講座 電磁機械学、電磁機械設計
- 第七講座 放電工学、プラズマ工学
- 第八講座 音響工学、応用音響工学

なお、電気工学第二学科は、電気工学科、電子工学科と密接な関係にあり、必要な知識を修得させるため、以上両教室の講義を聴講させることがある。また、電気工学実験、工場見学、夏期学外実習を行なって電気工学の実情を实地に体得させるほか、各研究室に配属して特別研究を行なわせる。

また、その他一般の工学部門の基礎講義も聴講させ、工学全般の基礎知識を修得させる (昭三六・一)

自由人

昭五 伊藤 忠雄

入して勤を養成するの時間を費した。五年目に志を新たにし理学部石橋教授のもとで三年程化学を勉強して大学を去った。

革命の無慈悲と言えよう。それは若かりし頃の大学の講義でさえも今は半ば葬り去られて終つて居ることを思えば思い半に過ぎぬであらう。

有用な菌種を実験室で発見したとしても、企業的プラントが実に粗末で性能を発揮出来ない場合が多いのである。培養と言え、周知のよう

案内を耳にしながら五反田から第二京浜国道を一路横浜に向い、横浜の三溪園にて五重塔のある庭園をみて有料道路を突進、快適なドライブを続け、鎌倉に到り鶴ヶ岡八幡宮を左に見て長谷大仏にて停車参観し、これより由比ヶ浜、稲村ヶ崎の海岸を走って江の島に到り、ここで昼食

○昨年は十一月の上旬に雄琴温泉で教室の名誉教授及び林重憲先生をお招きして三十年記念会を開催した。卒業当初は四十三名であったが、すでに他界された方が十四名、残り二十九名から馳参された面々は数えて十六名、酒の機嫌で語り明した一夜はまことに感慨深いものがあった。思出せば三十年の昔、青春の思

○フリーマンは常に未来への道を考へて居る。私の場合常に三つの道を歩んでいる。それは三味線の糸にも似て本調子、二上り、三下りの如く常に調子は整っていないけれど、二本は緊張して社会において余裕ある経済生活を支えて呉れる。フリーマンは直接社会に身を曝すから、会社官庁務めでは到底鍛えることが出来ない勘を自然に身に着けることになる。この勘はフリーマンをして前進

に直結することが出来ない場合が多い様に思われる。私も一応は多額の研究費をA社及びT社に出して頂いたが、斯道の権威者と共に私の改良案を進展せしむべく努力したのだが、理念に於いて従来型を脱却し得なかったで、さしたる成果を収めることが出来なかつた。ところが昨年来

後子供達待望のマリンランドで鯨の曲芸を見物し、これより自由行動にて橋を渡って江ノ島神社に参拝、こはエスカレーターで頂上の神社に登れるし、また後方には灯台もあって見晴もよく、このほか洞窟もあるが時間の関係で見た人もあり見ない人もあり、午後四時半江ノ島を後に一路東京へ帰着の途についてた。一日中よい天気、三溪園、長谷大仏、江ノ島のコースは目新しいものではなかつたが、しばし都塵を忘れ、言わば亭主族の集團の家族サピスとなつた次第であります。

たる英姿を現わされたことは、こよなく嬉しいことであつた。今も昔も変わらないのは大学を卒業すれば会社官庁いずれかへ就版するに定まらるが、私だけが青雲の志を抱いて独立独歩、今日まで官仕もせず大した事業を経営する訳でなく、しょんぼり姿を曝け出したことは慚愧の極であつた。

○電気技術者は非常に重宝な才能の持主である。それは昔、光、熱、電気、磁気、電子の世界をコントロールし、これを自由駆使する能力を持つて居るからである。されば、これらに依存しなければ発達しない技術面に指導を与えれば、大いなる成功を即座に収め得るのである。結局すると、他部門からは畏敬され、その勘によって多くの科学技術が経済的に企業化され、産業発展に寄与することが出来る。電気教室は電子

が有る。フリーマンとは私の行動を監視して夢遊病者のそれに似て理性に欠けて居ると忠告するのだが、気の赴くままに興を感ずるままに行動した方面では、冶金関係で、南方地方の稀元素鉱物の選鉱に関係したり、農学方面では、A会社、T会社に培養タンクの新規な発明を実施したり、立体製塩では、三重県味噌油統制会社社に大設備を設けさせたり、枕木の防腐では、阪急電車で厄介を掛けたり、数え来れば、十指を数えるのだが、戦争という臨時的技術要請によつて一時的にパツと出現したものは現在では何れもが雲散霧消して終つたことは、いづこも同じである。

第十回洛友会総会予告
本年は洛友会が生まれましてから十度第十回目の総会を開くこととなります。年と共に会員相互の親密の度も加わり、卒業何周年という記念クラス会も盛大になりましたことは、誠に御同慶の至りに存じます。

○併し、私は皆さんの前で声音らかに謳歌したことは官仕を為さない身の気楽さである。官仕をしないことは直接身を社会に曝らすことである。完全なフリーマンとは私のような人間を指すのであろう。何を考えようとも、又何を行動に移そうとも、凡そ他人から命令されたことがない(但し妻は別)、それ丈に自身の行為には全責任を負わされる独歩者であつた。私は卒業すると間もなく青柳栄司先生のもとで大学院学生として真空工学を勉強したのだが、元来就版意識はないので研究はこれに限定されず、物理教室や化学教室へも出

○私が只今タツチして居る興味ある問題を一つ申上げる。それは微生物を培養する企業的プラントであるが、数において一万四千種以上と称される微生物より、微生物反応学者

第十回洛友会総会
(日)午後四時より京都都ホテルに於いて開催いたします。詳細については次号にて御通知いたしますが、同日午前中は修学院離宮の拝観または比叡山ドライブをする手筈であります。

なお、翌十五日は宮びやかな饗祭が執り行われますので御家族同伴に

○技術は平和を問はず戦争を論せず心を磨いて鍛冶の道に精進して成つた小狐丸の様に清光凛々たる業物切物であつて欲しいのだが、今四方に其名が響いて居る技術でさえも何時か消されて終つたと覚悟しなければならぬのは、急進する技術

○私が只今タツチして居る興味ある問題を一つ申上げる。それは微生物を培養する企業的プラントであるが、数において一万四千種以上と称される微生物より、微生物反応学者

第十回洛友会総会
(日)午後四時より京都都ホテルに於いて開催いたします。詳細については次号にて御通知いたしますが、同日午前中は修学院離宮の拝観または比叡山ドライブをする手筈であります。

なお、翌十五日は宮びやかな饗祭が執り行われますので御家族同伴に

○併し、私は皆さんの前で声音らかに謳歌したことは官仕を為さない身の気楽さである。官仕をしないことは直接身を社会に曝らすことである。完全なフリーマンとは私のような人間を指すのであろう。何を考えようとも、又何を行動に移そうとも、凡そ他人から命令されたことがない(但し妻は別)、それ丈に自身の行為には全責任を負わされる独歩者であつた。私は卒業すると間もなく青柳栄司先生のもとで大学院学生として真空工学を勉強したのだが、元来就版意識はないので研究はこれに限定されず、物理教室や化学教室へも出

○私が只今タツチして居る興味ある問題を一つ申上げる。それは微生物を培養する企業的プラントであるが、数において一万四千種以上と称される微生物より、微生物反応学者

第十回洛友会総会
(日)午後四時より京都都ホテルに於いて開催いたします。詳細については次号にて御通知いたしますが、同日午前中は修学院離宮の拝観または比叡山ドライブをする手筈であります。

なお、翌十五日は宮びやかな饗祭が執り行われますので御家族同伴に

○併し、私は皆さんの前で声音らかに謳歌したことは官仕を為さない身の気楽さである。官仕をしないことは直接身を社会に曝らすことである。完全なフリーマンとは私のような人間を指すのであろう。何を考えようとも、又何を行動に移そうとも、凡そ他人から命令されたことがない(但し妻は別)、それ丈に自身の行為には全責任を負わされる独歩者であつた。私は卒業すると間もなく青柳栄司先生のもとで大学院学生として真空工学を勉強したのだが、元来就版意識はないので研究はこれに限定されず、物理教室や化学教室へも出

○私が只今タツチして居る興味ある問題を一つ申上げる。それは微生物を培養する企業的プラントであるが、数において一万四千種以上と称される微生物より、微生物反応学者

第十回洛友会総会
(日)午後四時より京都都ホテルに於いて開催いたします。詳細については次号にて御通知いたしますが、同日午前中は修学院離宮の拝観または比叡山ドライブをする手筈であります。

なお、翌十五日は宮びやかな饗祭が執り行われますので御家族同伴に

○併し、私は皆さんの前で声音らかに謳歌したことは官仕を為さない身の気楽さである。官仕をしないことは直接身を社会に曝らすことである。完全なフリーマンとは私のような人間を指すのであろう。何を考えようとも、又何を行動に移そうとも、凡そ他人から命令されたことがない(但し妻は別)、それ丈に自身の行為には全責任を負わされる独歩者であつた。私は卒業すると間もなく青柳栄司先生のもとで大学院学生として真空工学を勉強したのだが、元来就版意識はないので研究はこれに限定されず、物理教室や化学教室へも出

○私が只今タツチして居る興味ある問題を一つ申上げる。それは微生物を培養する企業的プラントであるが、数において一万四千種以上と称される微生物より、微生物反応学者

第十回洛友会総会
(日)午後四時より京都都ホテルに於いて開催いたします。詳細については次号にて御通知いたしますが、同日午前中は修学院離宮の拝観または比叡山ドライブをする手筈であります。

なお、翌十五日は宮びやかな饗祭が執り行われますので御家族同伴に

○併し、私は皆さんの前で声音らかに謳歌したことは官仕を為さない身の気楽さである。官仕をしないことは直接身を社会に曝らすことである。完全なフリーマンとは私のような人間を指すのであろう。何を考えようとも、又何を行動に移そうとも、凡そ他人から命令されたことがない(但し妻は別)、それ丈に自身の行為には全責任を負わされる独歩者であつた。私は卒業すると間もなく青柳栄司先生のもとで大学院学生として真空工学を勉強したのだが、元来就版意識はないので研究はこれに限定されず、物理教室や化学教室へも出

○私が只今タツチして居る興味ある問題を一つ申上げる。それは微生物を培養する企業的プラントであるが、数において一万四千種以上と称される微生物より、微生物反応学者

第十回洛友会総会
(日)午後四時より京都都ホテルに於いて開催いたします。詳細については次号にて御通知いたしますが、同日午前中は修学院離宮の拝観または比叡山ドライブをする手筈であります。

なお、翌十五日は宮びやかな饗祭が執り行われますので御家族同伴に

○併し、私は皆さんの前で声音らかに謳歌したことは官仕を為さない身の気楽さである。官仕をしないことは直接身を社会に曝らすことである。完全なフリーマンとは私のような人間を指すのであろう。何を考えようとも、又何を行動に移そうとも、凡そ他人から命令されたことがない(但し妻は別)、それ丈に自身の行為には全責任を負わされる独歩者であつた。私は卒業すると間もなく青柳栄司先生のもとで大学院学生として真空工学を勉強したのだが、元来就版意識はないので研究はこれに限定されず、物理教室や化学教室へも出

○私が只今タツチして居る興味ある問題を一つ申上げる。それは微生物を培養する企業的プラントであるが、数において一万四千種以上と称される微生物より、微生物反応学者

第十回洛友会総会
(日)午後四時より京都都ホテルに於いて開催いたします。詳細については次号にて御通知いたしますが、同日午前中は修学院離宮の拝観または比叡山ドライブをする手筈であります。

なお、翌十五日は宮びやかな饗祭が執り行われますので御家族同伴に

○併し、私は皆さんの前で声音らかに謳歌したことは官仕を為さない身の気楽さである。官仕をしないことは直接身を社会に曝らすことである。完全なフリーマンとは私のような人間を指すのであろう。何を考えようとも、又何を行動に移そうとも、凡そ他人から命令されたことがない(但し妻は別)、それ丈に自身の行為には全責任を負わされる独歩者であつた。私は卒業すると間もなく青柳栄司先生のもとで大学院学生として真空工学を勉強したのだが、元来就版意識はないので研究はこれに限定されず、物理教室や化学教室へも出

○私が只今タツチして居る興味ある問題を一つ申上げる。それは微生物を培養する企業的プラントであるが、数において一万四千種以上と称される微生物より、微生物反応学者

第十回洛友会総会
(日)午後四時より京都都ホテルに於いて開催いたします。詳細については次号にて御通知いたしますが、同日午前中は修学院離宮の拝観または比叡山ドライブをする手筈であります。

なお、翌十五日は宮びやかな饗祭が執り行われますので御家族同伴に

○併し、私は皆さんの前で声音らかに謳歌したことは官仕を為さない身の気楽さである。官仕をしないことは直接身を社会に曝らすことである。完全なフリーマンとは私のような人間を指すのであろう。何を考えようとも、又何を行動に移そうとも、凡そ他人から命令されたことがない(但し妻は別)、それ丈に自身の行為には全責任を負わされる独歩者であつた。私は卒業すると間もなく青柳栄司先生のもとで大学院学生として真空工学を勉強したのだが、元来就版意識はないので研究はこれに限定されず、物理教室や化学教室へも出

○私が只今タツチして居る興味ある問題を一つ申上げる。それは微生物を培養する企業的プラントであるが、数において一万四千種以上と称される微生物より、微生物反応学者

第十回洛友会総会
(日)午後四時より京都都ホテルに於いて開催いたします。詳細については次号にて御通知いたしますが、同日午前中は修学院離宮の拝観または比叡山ドライブをする手筈であります。

なお、翌十五日は宮びやかな饗祭が執り行われますので御家族同伴に

て御出席下さいますようお願い致します。

洛友会中国支部総会記事

暮も迫った十二月六日午後六時より、中国電力技術研究会に出席された林先生の御来広を機会に、山村幹事をお迎えして、広島市内「八重」に於いて、三十五年度洛友会中国支部総会を開催した。

真田支部長の挨拶にはじまり、幹事より会務、会計の報告を行ない、ついで役員の変更についてはかった



出席者
林(重)先生

- 山村 幹事 (大13)
- 岡田 邦彦 (大14)
- 佐川 重雄 (大15)
- 木村 一男 (大15)
- 木元 正夫 (大2)
- 真田 親雄 (大2)
- 高橋 親雄 (大4)
- 添田 貫一郎 (大6)
- 潮内 貞美 (大7)
- 潮見 公安 (大8)
- 角井 勉 (大15)
- 滝口 哲朗 (大16)
- 松谷 健一郎 (大16)
- 大月 清一 (大20)
- 小川 文明 (大21)
- 竹本 守男 (大21)
- 桐谷 守男 (大22)
- 近藤 良章 (大22)
- 上米 良宮夫 (大23)
- 門野 内忠幸 (大23)
- 石田 隆弘 (大25)
- 浴 厚夫 (大25)
- 橋本 吉昭 (大25)
- 小刀 浩一 (大25)
- 池内 晃一 (大28)
- 片山 敏夫 (大28)
- 奥沢 祥弘 (大30)
- 村尾 久 (大34)

ところ、一同異議なく重任に決った。また、次回から電気工学講習所を卒業された方も参加していただくことになった。

引つづき林先生の教室の近況、山村幹事の本部の状況についてお話があり、宴会に入った。本文部は名だたる芸者揃いにて、その中でも添田さんの三味線の弾き語りや、木村さんの謡に門野内名取の仕舞はいつもながら鮮やかなもので、名妓の歌った黒田節の美声と共に当日の秀逸であった。(松谷健一郎記)

洛友会関西支部総会記事

十二月十日午後五時より阪急八階特別食堂において関西支部総会を開催した。

今田支部長の挨拶があつて、幹事より昭和三十四年度事務並びに会計報告をなし、ついで役員の変更をはかったところ、議長一任ということになり、議長は、支部長に芦原義重氏を、副支部長に西枝一江氏および野田忠二郎氏を推薦したところ、満場拍手をもってこれを承認した。

ついで宴会にうつり、観談中に新会員三十一名をユーモラスなうちに紹介をなし、午後八時、野田大先輩の洛友会万歳の発声に唱和三唱して開散した。

出席者 一〇三名

- 野田清一郎(明4)内田 守(大3)
- 光野重威(大6) 保寿康象(大6)
- 山村忠行(大6) 阿部 清(大7)
- 工藤寿男(大7) 弘田亀之助(大9)
- 今田英作(大12) 庄野誠一(大12)
- 水津圭蔵(大14) 口羽玉人(大14)
- 大久保達郎(大14) 熊谷三郎(大2)
- 林 重憲(大2) 上林 明(大3)
- 森 薫(大3) 齋藤亥三雄(大4)
- 井田 清(大5) 野田忠二郎(大5)
- 藤田 真(大6) 山本 茂雄(大6)
- 善積 儉一(大7) 鈴木 茂(大7)
- 尾形 理(大7) 浅田 英直(大7)
- 和田 昌博(大7) 前田 憲一(大7)
- 塩見 武夫(大8) 喜田村善一(大9)

東京十四日会

最近憲授褒章を受賞された平井寛一郎氏が、又水津圭蔵氏が御長男の御慶事のために上京されたのを機会に十一月二十九日一年振りで日立電線弥生クラブに会合した。

丁度総会時期でそのための不参も多く、又常連の一本松珠璣氏も所勞で欠席されたが、それでも十八人が集り、最近ドイツから帰朝された山本三郎君の元氣を祝って、歎を尽した。

来年五月十五日(日)に箱根又は伊東辺で三十五周年の第二回会合を催すことを申合せたが、何れ詳細は幹事によって立案される筈。写真の不手際で紙上に各位の健在を紹介することの出来ないのは残念であるが、出席者は左記の通り(到着順敬称略)

- 木津 圭蔵 瀬川為三郎
- 歌原 誠一 飯村 三六
- 滝本 浩 西原 藤吉
- 山崎 武夫 岡本 一郎
- 谷 忠篤 山本 三郎
- 田近 哲三 田代 寛
- 橋本 真吉 平井寛一郎
- 沢山 義一 石川 辰雄
- 樋口竹次郎 小宮 義和

(小谷義和記)

昭十会

二十五周年記念行事報告

拝啓時下初冬の候貴会益々御隆昌の段お慶申上げます。

借而私共昭和十年卒業生一同は今春を以て卒業滿二十五年を迎えましたので、去る十一月三日下記の様に、記念行事を挙行盛会裡に終了致しましたので茲に報告致します。

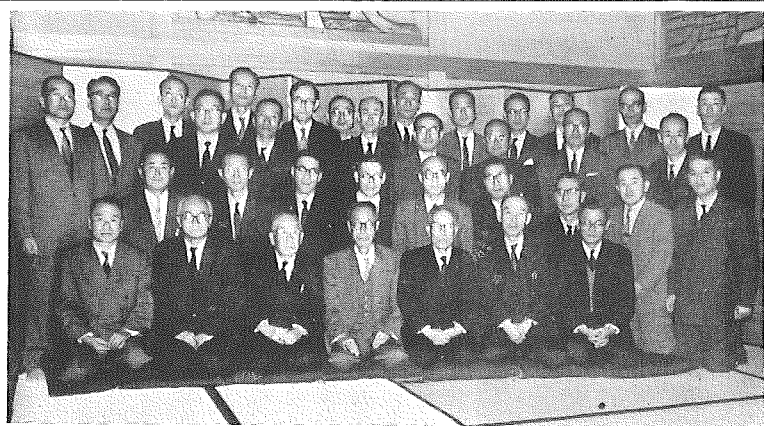
記

一、講演会(於電気教室)

(イ)教室の現状 林 先生

(ロ)東南アジア視察記

佐々木卓夫氏



二、祝宴 吉田山莊

鳥養先生 岡本先生 松田先生

阿部先生 羽村先生 林 先生

四、出席者(二〇名)

天野宗明 有馬敏彦 井上友一郎

植田正一 大塚好造 香山日出雄

神谷進 北村芳雄 小林 大祐

小寺正純 佐野一雄 坂本 患久

佐々木卓夫 塩沢 弘 清水威寛

染田 武男 田村誠一 高田昇平

高木 正 殿井不二雄 中沼保三

中塚 孝志 林 潔 日高安社

藤本 悟郎 森 武治 上山隆也

山田 昇 和久利保 和田寿太郎

(和田寿太郎記)

電講昭和十一—十五年卒業合同窓会記事

晩秋の十一月二十日、紅葉映ゆる洛西紙屋川のほとり北野茶寮において講習所昭和十一—十五年卒業生の合同窓会が午前十一時より開かれました。

当日は来賓として林(重)

上西画先生、大学近藤先生、

洛友会山村幹事、講習所白

坂代表諸公の御出席を得て

開催の意義を高めることが

出来ましたが、ただ残念だ

ったことは関野老生が不自

由な御体のため御自身の希

望にもかかわらず御出席を

頂けなかったことでした。

各学年幹事の懸命な奔走

により遠く九州の僻地をは

じめとして、中国、四国、

中部、関東、り多数の方が

出席され盛大な会合となりましたとは同慶の至りでした。

希望と喜びに胸をふくらませた卒業以来、ついに相合う機会を得ぬま

まに二十有余年、その間隔を重ねて

白髪とまではいかぬまでも、すでに

霜をいただいたものも多数あり、し

ばし相対して言葉が出ず、胸に吊し

たりボンの名前と照らし合わせ、漸

く挨拶が出る有様、つぎつぎと昔の

話が繰りひろげられるうちに、いつ

しか往時の面影が浮び出して同窓会

の雰囲気はいやが上にも盛り上がり

た。

正午より山口幹事の挨拶、出席全

員の自己紹介、諸先生よりの思い出

話、電気教室と洛友会の近況、特に

幹事が用意した関野生の録音を拝聴

する。これより開宴となり、杯を重ね

ぬるにつれ、いつのまにか先生方を

中心として集団があちこちに出来、

話は何時迄も尽きる処がない。昔の

珍談奇談も飛び出す始末。しかし時

の経過は意外に早く、幹事の予定し

たお国自慢、かくし芸

の披露も願わぬうちに

夕暮迫り、一同先生方

を御送りして各年度別

の記念撮影を終えた時

は短かい秋の日もつ

ぷり暮れ果てた予定の

五時。全員いつしか肩

を組み合せ、螢の光を

合唱する裡に尽きぬ名

残を止めつつ次の再会

を期して会を閉じた。

(藤村俊一記)



訃音

柳瀬 松喜君(明四〇)九月二十日

村野 貞朗君(大三) 十月十日

大和ゴム化工株式会社社長

竹林嘉一郎君(大一一)十一月

芝原 貞吉君(大一一)十二月二十九

日京都工芸繊維大学工芸部教授

公文 幸天君(昭六) 十二月十七日

土佐電鉄技術部長

以上五君は有為の材を擱きながら御逝去になりました。謹んで哀悼の意を表します。

編集後記

前号、男女掃除くらべて紹介しました那是製糸を、最近鳥養先生が二十八年前振りに訪ずられたところ、昔のままの清浄さが保たれ、講室にて約一時間に亘る講演をなさったのでありますが、それを聴いている男女工員達は終始姿勢を崩さず実に整然としていたのには、先生もほとほと感心され、波多野社長に聞かれたところ、現在は他からの圧迫もあるが兎に角つづけられる迄はつづけて行こうとのことであって、先生もこれを激励されたことでもあります。

本号、林先生の電気工学第二学科の新設については、その拡張に要する資金の幾部は寄付に待つことなるう思いますが、それにつきましては会員各位の御支援と御協力を心から御願ひ申し上げます。

お願い

昭和三十五年度およびそれ以前の洛友会会費未納の方には本会報に振替用紙がはさんでありますから、お忘れなく是非お払込み下さい。

Handwritten notes and signatures in the bottom left corner, including names like 藤村俊一 and 林先生.